

虫の声も聞こえる様になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

台風一過の町はきれいに洗われて  
道も木々も新鮮に輝いています。  
紅に染まる澄んだ空には  
夕焼け雲の色が深く深く沈んでいきます。  
今日もいい天気。  
今夜は、西に傾く天の川のせせらぎに  
秋の星座の物語がこだましてきそうです。

それでは今月も行ってみましょう。

2025年 9月

【主な現象】

9月 1日	はくちょう座 $\chi$ が極大光度
9月 8日	満月 ( 3時09分) 皆既月食 ( 1時26分)
9月10日	月が最近 (21時10分)
9月14日	下弦 (半月) (19時33分)
9月22日	新月 ( 4時54分) 土星が衝 (15時31分)
9月23日	秋分 ( 3時19分)
9月24日	海王星が衝 (12時05分)
9月26日	月が最遠 (18時46分)
9月30日	上弦 (半月) ( 8時54分)

## 【解説】

★はくちょう座 $\chi$ が明るくなっています。

白鳥の長く延びた首の中央あたりに有って、明るいときはよく見えて星座の形を作る星になりますが、暗くなると全く見えなくなります。

4等星程度になると、普段白鳥の首のまん中を作っている $\eta$ と同じくらいの明るさなので、首の形が変わって少し曲がった首に見えます。

はくちょう座が見やすい時期なのでよく見ておきましょう。

★9月8日の満月は皆既月食となります。

高い空で欠け始めますが、食の最大のころは西に傾いて高度は $24^{\circ}$ 程度です。

### 東京での進行

半影食の始まり	0時27分		
部分食の始まり	1時29分	食分	0.00
皆既食の始まり	2時30分	食分	1.00
食の最大	3時12分	食分	1.37
皆既食の終わり	3時53分	食分	1.00
部分食の終わり	4時57分	食分	0.00
月没	5時26分		
半影食の終わり	5時57分		

★9月22日の新月は部分日食になりますが、日本からは見えません。

★土星が見ごろとなっています。

まだ、環は寝ていて、土星らしく無いかもしれません。

★9月23日は、秋分で太陽がほぼ天の赤道上にいます。

太陽が昇るときの真東の方角、南中したときの赤道の高さ、太陽が沈むときの真西の方角、など、目には見えない赤道の位置を確認しておきましょう。

★明け方東の空の黄道光が見やすくなっています。

秋の明け方は黄道が地平線に対して立つので、黄道光の高度が高くなって見やすくなります。黄道光は、太陽から黄道に沿って延びる光の帯です。黄道光は天の川より淡いので、天の川がはっきり見える様な暗い空のところで、薄明が始まる前に、黄道星座を目安にして探してみましょう。明け方に月の無い9月上旬が見ごろです。

## 【観望案内】

### ★接近

- △ 9月02日 レグルスと水星が  
明け方東の地平線近く（ 4時30分以降）で  
接近して見えます。  
見ごろは 4時45分ごろでしょう。
- 9月08日 土星と月（月齢16.2）が  
宵に東の低い空（18時40分以降）で  
接近して見えます。  
見ごろは21時00分ごろでしょう。
- △ 9月13日 プレヤデス星団と月（月齢20.4）が  
夜半過ぎに東の空（20時50分以降）で  
接近して見えます。  
見ごろは 1時00分ごろでしょう。
- △ 9月12日 スピカと火星が  
夕方西の地平線近く（19時10分以前）で  
接近して見えます。  
見ごろは18時30分ごろでしょう。
- 9月17日 ポルックスと木星と細い月（月齢24.5）が  
未明に東の空（ 0時20分以降）で  
接近して見えます。  
見ごろは 4時00分ごろでしょう。  
ポルックスと月はかなり接近します。
- ◎ 9月19日 レグルスと金星と細い月（月齢26.6）が  
明け方東の空（ 3時30分以降）で  
接近して見えます。  
見ごろは 5時00分ごろでしょう。  
レグルスと金星は非常に接近しています。
- △ 9月24日 火星と細い月（月齢 2.5）が  
夕方西の地平線近く（18時20分以前）で  
接近して見えます。  
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- 9月27日 アンタレスと細い月（月齢 5.5）が  
夕方西の地平線近く（20時00分以前）で  
接近して見えます。  
見ごろは18時00分ごろでしょう。
- ※ ◎：非常に接近するか、見た目が特にきれいと思います。  
○：見ておもしろいと思います。  
△：高度が低かったり、薄明の中であつたりで見にくいと思います。  
但し、朝焼けや夕焼けと山の稜線も入れて写真にする等  
意外とおもしろい可能性は有ります。  
◇：双眼鏡や望遠鏡で見られます。

## ★日没

東京での日没は

9月 1日 18時08分

9月 8日 17時59分

9月15日 17時48分

9月22日 17時38分

もう秋分近くで、いつのまにか日の暮れるのがずいぶん早くなっています。

最も遅かったころに比べると約1時間早くなっています。

これからは、1日に約1分半の割合でどんどん早くなって行きます。

## ★今宵の空

日が暮れると（19時～20時ごろ）

夏の星座から秋の星座に移り変わるところで、夏の星座の残りと秋の星座の先頭が見えています。

天頂付近 こと座、はくちょう座、夏の大三角、こぎつね座、や座  
南の空

高 わし座

中 たて座、いて座、南斗六星

低 みなみのかんむり座、ぼうえんきょう座の一部

南西の空

中 へびつかい座、へび座（尾部）

低 さそり座

西の空

高 ヘルクレス座

中 かんむり座、へび座（頭部）、うしかい座

低 てんびん座の一部、おとめ座の一部

北西の空

中 りょうけん座

低 かみのけ座の一部

北の空

高 りゅう座、ケフェウス座

中 こぐま座

低 おおぐま座、きりん座

北東の空

高 とかげ座

中 カシオペヤ座、アンドロメダ座

低 ペルセウス座

東の空

中 ペガサス座

低 土星、うお座、さんかく座

南東の空

高 いるか座、こうま座

中 みずがめ座、やぎ座

低 みなみのうお座、けんびきょう座

が出ています。

## ★星のお話

ほうおう座 [鳳凰]

設定者：バイエル

Phoenix (Phe)

面積：469平方度

《The Phoenix》

ほうおう座を見てみましょう。

バイエルが17世紀に新設した星座です。

ドイツの法律家バイエル（1572～1625）が、南半球航海者の情報から南天に12の星座を新設して、全天の星座を51枚の図に描いた星図ウラノメトリアを1603年に発表しました。その中に含まれる12の新設星座のうちの1つです。<sup>☆01)</sup>

ケイザー、ハウトマンの記録をもとに、プランキウスが地球儀に載せたのが最初の様です。<sup>☆02)</sup>

☆01)【星座の神話 原恵 恒星社厚生閣】

☆02)【星の文化史事典 出雲晶子 白水社】

## \* 星の並び

秋も深まり、ペガサスが天高く昇りきったころ、四辺形の東側の辺を南の方へ延ばしていくと、くじら座の尾の星デネブカイトスが見つかります。さらに、南の方まで延ばしていくと、地平線の近くにぼつんと1つ輝く2等星が有ります。これが、ほうおう座の $\alpha$ でこの辺りがほうおう座です。

$\alpha$ だけが目立って辺りには一見何も見えませんが、雲が無く南の空が澄んだ日には、 $\alpha$ の $15^\circ$ ほど東に3等星の $\gamma$ 、 $\alpha$ と $\gamma$ の間の南方に3等星の $\beta$ が見えて長細い三角に見えます。

しかし、これらは星座の一部で、東京辺りからでは、ほうおう座の南方は地平線から昇らず全体は見られません。

南国に出かけて全体を見たとしても、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ 以外は4等星以下なので、天高く見える南半球まで行かないと、あまり代わり映えは無いかもしれません。

日本で見る限り、一つ星という感じで、不死鳥の姿には見えません。有名な天体も無く、あまり知られていませんが、秋も深まるひっそりとした南の低空でひととき目立ち、つる座と同様に、初めて見たとき、こんなところに意外な星があったと驚きます。

## \* 星の名前

$\alpha$ はザウラク「船」<sup>☆03)</sup>

ナイル・アルザウラク<sup>☆03)</sup>（アル・ナーイル・アル・ザウラク<sup>☆04)</sup>）

「船の輝く星」<sup>☆03)</sup>

（なぜか、エリダヌス座 $\gamma$ も同じ名前<sup>☆04)</sup>です。）

アンカー（意味不明）<sup>☆03)</sup>

という名前が付いています。

☆03)【星座の秘密 前川光 恒星社厚生閣】

☆04)【星の百科 草下英明 社会思想社】

## \* 観望

銀河が多く有りますが、あまり観望向きではありません。

## \* 補足

日本名は、鳳凰（古来中国の想像上のめでたい鳥）<sup>☆05)</sup>ですが、原名のPhoenixは、アラビアの砂漠に住み500年生きると、自ら香木を積んで火をつけた中に飛び込んで焼け死にますが、すぐに灰の中からよみがえるというエジプトの伝説の不死鳥です。<sup>☆05)</sup>

☆05)【広辞苑 第四版 新村出編 岩波書店】

★夜更けの空

夜が更けると（２２時～２３時ごろ）

秋の星座が出揃っています。

天頂付近      ペガサス座、とかけ座

南の空

高      みずがめ座

中      やぎ座、みなみのうお座、けんびきょう座

低      つる座

南西の空

高      いるか座、こうま座

中      わし座、たて座

低      いて座

西の空

高      はくちょう座、こぎつね座、や座、こと座

中      ヘルクレス座、へび座（尾部）

低      へびつかい座の一部

北西の空

中      りゅう座

低      かんむり座

北の空

高      ケフェウス座

中      こぐま座、きりん座

低      おおぐま座の一部、やまねこ座の一部

北東の空

高      カシオペヤ座

中      ペルセウス座

低      ぎょしゃ座

東の空

高      アンドロメダ座、さんかく座

中      おひつじ座

低      おうし座

南東の空

高      土星、うお座

中      くじら座、ちょうこくしつ座

低      エリダヌス座の一部、ろ座の一部、ほうおう座の一部

が出ています。

## ★惑星

水星は、9月上旬は明け方東の低い空、9月下旬は夕方西の地平線近くに見えます。

9月13日が外合で、9月の間に明け方から夕方に素早く移り変わる様子が見られます。

9月 1日は、 4時14分に昇ります。

9月 8日は、 4時52分に昇ります。

9月15日は、 5時29分に昇り、 11時44分に南中します。

9月22日は、 17時59分に沈みます。

金星は、明け方東の空に見えます。

9月 1日は、 2時40分に昇ります。

9月 8日は、 2時54分に昇ります。

9月15日は、 3時07分に昇ります。

9月22日は、 3時22分に昇ります。

火星は、おとめ座にいて、夕方西の低い空に見えます。

9月 1日は、 19時43分に沈みます。

9月 8日は、 19時27分に沈みます。

9月15日は、 19時11分に沈みます。

9月22日は、 18時56分に沈みます。

木星は、ふたご座にいて、未明に東の空に見えます。

9月 1日は、 1時06分に昇ります。

9月 8日は、 0時45分に昇ります。

9月15日は、 0時23分に昇ります。

9月22日は、 23時56分に昇ります。

土星は、うお座にいて、宵に南東の空に見えます。

9月 1日は、 19時05分に昇り、 1時05分に南中します。

9月 8日は、 18時37分に昇り、 0時35分に南中します。

9月15日は、 18時08分に昇り、 0時06分に南中します。

9月22日は、 23時32分に南中し、 5時30分に沈みます。

天王星は、おうし座にいて、夜半に東の空にいます。

9月 1日は、 21時50分に昇り、 4時58分に南中します。

9月 8日は、 21時23分に昇り、 4時30分に南中します。

9月15日は、 20時55分に昇り、 4時02分に南中します。

9月22日は、 20時27分に昇り、 3時35分に南中します。

海王星は、うお座にいて、宵に南東の空にいます。

9月 1日は、 19時04分に昇り、 1時08分に南中します。

9月 8日は、 18時36分に昇り、 0時40分に南中します。

9月15日は、 18時08分に昇り、 0時11分に南中します。

9月22日は、 23時39分に南中し、 5時42分に沈みます。

(出没の時刻は東京での目安です)

## 【スター紹介】

★M62★NGC 6266

へびつかい座に有る球状星団です。

距離は2.2万光年で、大きさは46光年、見かけの

大きさは4.3' (★06)で、我々の銀河系内の星団です。

へびつかい座は球状星団の宝庫ですが、見つけるのはなかなか大変です。

球状星団はどれもよく似ていて、散開星団の様な明らかな特徴が無いので、わずかな大きさや、集中度の違いしか無く、それらしきものを見つけても、何なのか確認するのが大変です。星をたどった位置と背景の恒星くらいしか頼りになりませんが、へびつかい座の様に近接してたくさん有ると、恒星しか頼りになりません

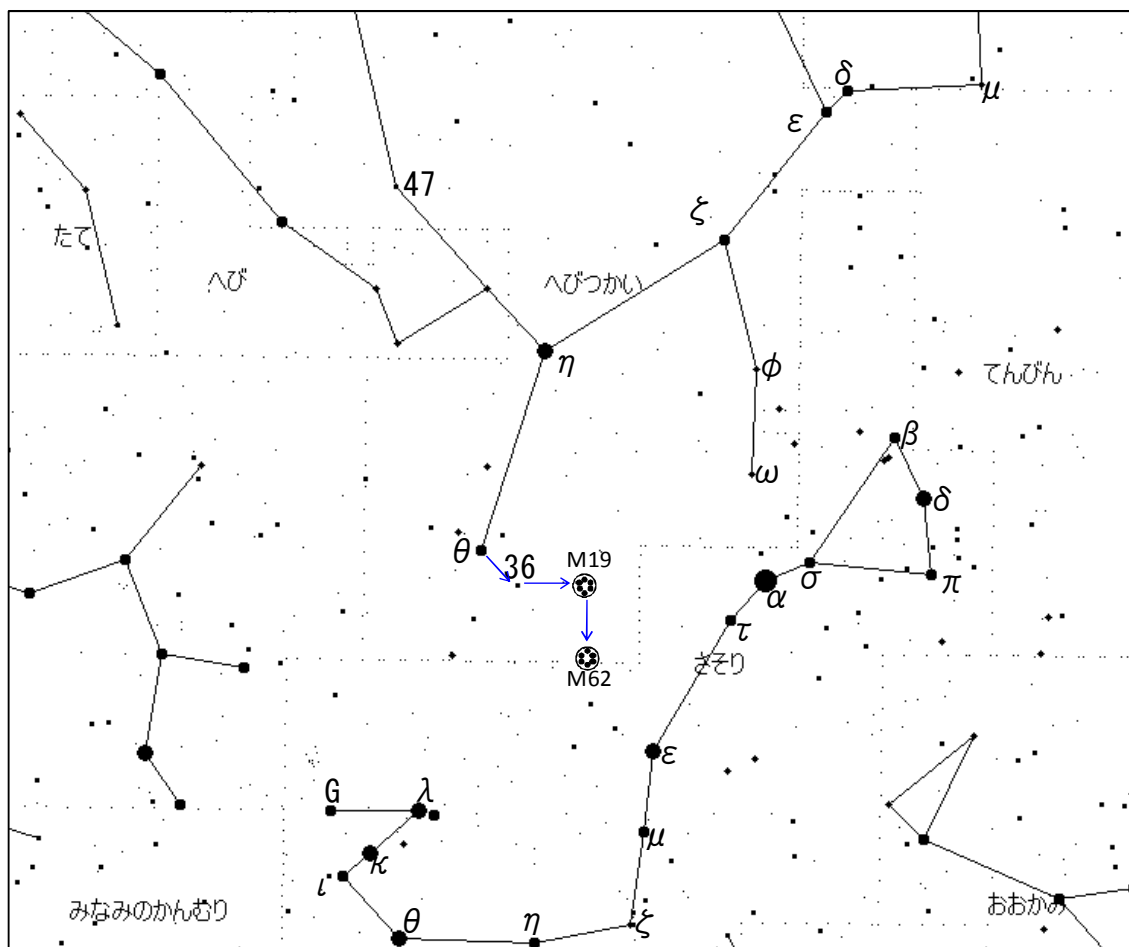
M62は、へびつかい座の南端で、さそり座との境界のところに有って、へびつかい座の足のところ3等星 $\theta$ と、さそり座の胴体の中央のところ2等星の $\varepsilon$ の間でやや $\varepsilon$ よりのところに有ります。

へびつかい座 $\theta$ の南西に4等星の36番星が有り、その西に同じ様な球状星団のM19が有ります。M19の約3°南に並んで有るのがM62です。双眼鏡では、わずかに滲んだ恒星状で注意して見るとなんとか恒星と区別が付く程度。口径5cmでいどの望遠鏡では中央に光が集中していて周りにうっすら滲んでいる感じ。口径10cmでもあまり変わらず。

球状星団らしく見るには口径20cm程度ほしいところです。

しかし、小望遠鏡で微かに星団らしき天体を次々と散策するのも楽しいものです。

写真に撮ると、どの球状星団もそっくりで、しっかりメモしておかないと後で見ても分からなくなり、判別するのが大変になります。





M 6 2      口径 1 3 c mにて撮影

☆06) 【天文年鑑 2 0 2 5 年版      天文年鑑編集委員会   編著      誠文堂新光社】

#### 【まめ知識】

##### ★遠星点・近星点★

連星の伴星が楕円軌道で公転している場合、軌道の焦点に有る主星から最も離れた点を「遠星点」、最も近い点を「近星点」といいます。

太陽の周りを公転する惑星の遠日点・近日点と同様でケプラーの法則によって軌道上を運動します。 ☆07)

☆07) 【天文の事典      小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修      平凡社】

それではまた。

#### 【参考文献】

☆01) 星座の神話      原 恵      恒星社厚生閣

☆02) 星の文化史事典      出雲晶子      白水社

☆03) 星座の秘密      前川光      恒星社厚生閣

☆04) 星の百科      草下英明      社会思想社

☆05) 広辞苑 第四版      新村出編      岩波書店

☆06) 天文年鑑 2 0 2 5 年版      天文年鑑編集委員会   編著      誠文堂新光社

☆07) 天文の事典      小平桂一、日江井栄二郎、堀源一郎、監修      平凡社